

シリーズ「私の見た日本」 とあるイギリス人研究者から見た日本



Andrew Hillier

〈京都大学大学院理学研究科付属花山天文台 〒607-8471 京都市山科区北花山大峰町〉

e-mail: andrew@kwasan.kyoto-u.ac.jp

日本に住む英国人にとって、日本での生活はとても面白いです。概して日本の生活を楽しんでおり、日本で過ごす期間は非常によかったと思います。私が日本に住み始めたばかりの頃、例えば豆腐をチーズと間違えて買ってしまったりという馬鹿みたいなミスをいろいろしました。そんな頃から、現在、京都大学の研究員になるころまで面白い6年間を過ごしました。私が日本で過ごした6年間の生活について紹介したいと思います。

私の名前はAndrew Hillier（アンドリュー・ヒリアー）と言います。およそ6年前に日本に来ました。日本にいる6年間はずっと関西に住んでいますが、まだまだ関西弁を極めることはできていません。私の日本にいる間の経験と思い出を皆さんにお話したいと思います。

日本で好きなものは日本の食べ物です。特にこってりしている食べ物。日本の料理の中で、好きなものはラーメンとお好み焼きです。日本の食べ物のせいで、日本に来てからかなり体重が増えました。ほかに好きな日本のものは畳です。畳の匂いは最高だと思います。最近、畳部屋のある家に引っ越して、睡眠時間をもっと楽しむようになりました。

私は「何で日本に来たんですか？」という質問をよく受けます。「なんでやろうな？」と答えるときが多いですが、がんばって説明します。初めて日本に来たとき、私はまだ19歳でした。大学に入学する前に、1カ月日本を旅しました。その旅は非常に面白かったのですが、何かと出費がかさんだので、見たいところを全部見ることはできませんでした。相撲の試合をちゃんと見ることはできました。旅が終わりイギリスに帰ってから、

「もう1回日本に行きたいな」とずっと考えていました。そんな思いが後押しして、イギリスの大学を卒業してすぐに日本に戻りました。大学でずっと戻りたい気持ちがありましたので、日本に行けるようになったと非常に嬉しかったと同時に緊張もしました。そのときは日本語ができたわけではないですし、初めて海外に住むことになったからです。

現在、京都大学の附属花山天文台で研究員として仕事をしていますが、最初に日本に来た頃は研究のためではなく、兵庫県の鳴尾高校で英語を教えていました。読者の皆さんは、中学生か高校生の頃の英語の授業に外国人の先生が現れたことを覚えていると思います。私はその仕事をした人のうちの一人です。その仕事は楽しく、生徒の成長を見るのは嬉しかったので、本当に楽しく過ごすことができました。

2年間、日本の高校で英語を教えたのですが、やはり自分は天文学が好きでしたので、学校を辞め、京都大学大学院の博士課程に入りました。京都大学大学院と高校の雰囲気はかなり違いました。特に皆の働く時間が違います。学校なら、皆、朝早い時間からいますが、京都大学では夜型

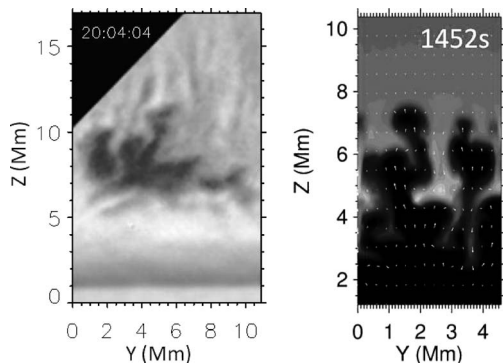


図1 プロミネンスにおける「泡」という現象の画像(左)と私が行ったプロミネンスのモデルで3次元の磁気レイリーテラー不安定性のシミュレーション画像。重いプロミネンスの下に軽い泡ができ、レイリーテラー不安定性が発達する状態になることがわかりました。



図2 私(右)とダーゲシュ・トリパッティ教授(左)がインドでホーリ祭を楽しんでいる様子(ブネ, インド)。

の人が多いです。私も大学院生の間の生活は完全に夜型になりました。毎日、昼過ぎに大学へ行き朝2時以降に帰りました。博士論文を提出する日が近づけば近づくほど、帰る時間がだんだん遅くなりました。

イギリスのリーズ大学にいた頃は太陽ダイナモの研究を行っていましたが、京都大学の博士課程では、太陽大気の中に存在するプロミネンスという現象の研究を始めました。始まったばかりの頃は、太陽の大気とか、太陽の観測にあまり詳しくなかったこともあり、ゼミの内容などをあまり理解することができず困りました。先輩と同級生のおかげで、太陽のことが少しずつわかるようになってきて、研究を進めることになりました。現在、私は太陽プロミネンスにおける磁気レイリーテラー不安定性の数値シミュレーション(図1)をしています。

私の研究の興味を簡単にまとめると、磁気流体力学の不安定性に興味をもっています。特に非線形になって、ぐちゃぐちゃな状態になるときは非常に面白いと思います。最近の太陽観測(特に日本の「ひので」衛星の観測)でいろいろな不安定性を観測できるようになってすばらしい時代に

なつたと思います。こういう研究をやっているおかげで、世界中のいろいろなところに行き、発表したり研究したりすることができました。図2は最近、研究のためインドに行き、祭りに参加したときの写真です。

京都大学大学院で3年を過ごした後、博士の学位を取得し卒業できました。卒業して、京都大学の研究員になりました。博士をとった場所と同じですが、立場が変わって、大学院生向けの英語の授業をお願いされました。学ぶほうから、また教える側に戻りました。

もう6年間も母国から離れています。日本での生活には慣れてきたと思いますが、たまにホームシックになることがあります。特にイギリスの料理を食べていなくて寂しくなります。一番食べたいものは羊肉です。日本でも売っているのですが、値段が高くて量が少ないです。イギリスの実家に帰った際に、母が羊の足の丸焼きをオーブンで焼いてくれました(図3)。

ほかにも食べたい物がたくさんあります。例えば、イギリスのチーズ、特にチェダーとスチルトン、そして、本場のフィッシュ・アンド・チップスも日本ではなかなか見つけることができません。イギリスに帰る際に、母国の食べ物を食べられる



図3 イギリスの実家に帰ったときにオーブンで焼いた羊肉。

感動を説明することはできません。私は初めて日本に来たとき、すぐにチーズを食べたくなりました。イギリスなら、スーパーには必ずチーズを売っているので、日本も一緒なんだと思っていました。スーパーへ行き、白くて四角いチーズっぽい物を見つけることができました。それでテンションが非常にあがり、家に帰って食べようと思いました。ですが、買ったものはチーズではなくなんと豆腐でした。トーストにのせて食べたのですが、あまり美味しくなかったです。今はもう日本のスーパーにも慣れ、豆腐とチーズを区別できるようになりました。

日本に来てチーズの買い方以外にも問題はいろいろありましたが、苦しい思い出より、楽しい思い出のほうが断然多いです。日本にいる間、いろいろなことがありいろいろな経験を積むことができました。将来、どうなるかまだわかりませんが、日本で過ごした6年間は非常に楽しく、来てよかったと思います。やさしくしてくれたみなさんに感謝しています。

A British Researcher in Japan

Andrew Hillier

*Kwasan Observatory, Graduate School of Science,
Kyoto University, Ohmine-cho, Kitakazan, Yamashina, Kyoto 607-8471, Japan*

Abstract: As an Englishman who is living and working in Japan, life can be very interesting. In general, my life in Japan has been a very positive experience and I really enjoy living here. During my time here, I have gone from mistaking tofu for cheese, and many other silly mistakes, to reach my life now as a Postdoctoral Researcher at Kyoto University. In the following article, I will try to tell you about my experience in the country that has been my home for the last 6 years.